



家庭はすべての教育の出発点と言われます。「ねっこりん」は鳥取県家庭教育応援キャラクターです。皆さんとともに応援し続けます。

令和6年3月25日

発行：鳥取県教育委員会事務局

社会教育課

社会教育・地域学校協働推進担当

TEL/0857-26-7520

FAX/0857-26-8175



本年度は、コロナ感染症が5類になったこともあり、子育て・家庭教育に関する研修を全て対面で行うことができました。また、コロナ禍で派遣の数が減っていた家庭教育アドバイザーや「とっとり子育て親育ちプログラム」ファシリテータの派遣もコロナ前のように回復しつつありました。一方、コロナ禍で途切れてしまったつながりを回復させるにはまだ時間がかかりますが、本年度も皆さまの御協力があり、鳥取県の子育て・家庭教育の事業を無事に終えることができました。

さて、本年度も「切れ目ない、きめ細やかな子育て・家庭教育支援」を合言葉に子育て・家庭教育支援を推進してきました。本年度の子育て・家庭教育支援についてまとめてみましたので、御一読いただき、本年度を振り返っていただけたらと思います。

子育て・家庭教育支援員等養成講座 兼 家庭教育関係者研修会

<第1回>市町村の家庭教育支援充実に向けて（7月19日）

- ①県の家庭教育支援について
- ②シン・子育て王国のとっとり取組
- ③学校の現状とSC・SSWのかかわり
- ④切れ目ない子育て・家庭教育支援体制の構築に向けて（文部科学省）

・家庭教育とは全ての教育の出発点。子どもの心身の調和のとれた発達を図る上で、重要な役割を担うもの。そのための支援として国及び県の取組を紹介しました。



<第2回>保護者へのかかわり・支援方法等（8月10日）

講義「児童虐待の防止と相談支援の取り組みについて」

鳥取市子ども家庭相談センター 森田誠一 氏

- ・「大丈夫？」という声かけでは、「大丈夫です」と返されがち。
- 重要なのは「決めつけないこと」、伴走しながら共に関わっていくこと。

講義・演習「子育て支援のための傾聴と観察」

公認心理師・臨床心理士 小林幹子 氏

- ・耳を傾け、目で注意を払い、心を配ることが大切。
- ・「話を聞く」ことは「教えない」こと。
- ・教え始めれば、相手は黙ってしまう。 など



<第3回>地域人材を活かした子育て・家庭教育支援（9月20日）

講義「今日も誰かの応援団 ～孤独孤立を防ぐ地域の拠点を目指して～」

一般社団法人スペースソラ 代表理事 佐々木よしみ 氏

- ・子育て中のママ達が立ち上げ、元保育士・学校教諭・看護師・助産師など異業種の専門スタッフが、赤ちゃんから高齢者まで地域の拠点として切れ目ない支援を行っておられました。また、その熱い想いも語っていただきました。

演習「子育て親育ちプログラム」体験

「とっとり子育て親育ちプログラム」ファシリテータ 浅雄淳子 氏

- ・アイスブレイクで会場の雰囲気をつくり、本プログラムを一通り行っていました。グループワークでは、自分に余裕がある時とない時の子どもへの声かけなど、子どもを元気にする言葉かけや接し方について、語り合いました。



<第4回>子育て・家庭教育支援の充実に向けて（10月26日）

実践発表「いちい応援隊の取り組み」

日南町家庭教育支援チーム 金森弓束 氏、平井千佳子 氏

- ・アンケートにより日南町の現状を分析の上、必要な支援を精査。
- ・保護者等の学びの場の提供、保護者の居場所づくり、個別訪問による家庭教育支援などの取組紹介。

実践発表「茨城県坂東市家庭教育支援チーム」

坂東市教育委員会生涯学習課 社会教育主事 増淵晋 氏

坂東市訪問型家庭教育支援チームの皆様

- ・訪問において重要なこと①支援員の訪問スキル（寄り添い関わる力、つながる・つなぐ力）、②ケース会議、③ファーストコンタクト、④継続すること
- ・訪問型支援の依頼方法や訪問の流れ、福祉部局や民間団体との連携について



【8月24日】

○講義・演習

「コミュニケーションを再考する」

講師：清國 祐二 氏（大分大学大学院 教育学研究科 教授）

「とっとり子育て親育ちプログラム」ファシリテータ フォローアップ研修会



大分大学大学院の清國教授をお招きし、フォローアップ研修会を開催しました。清國教授には、「いい人ってどんな人？」「ネガティブな言葉を避けるために」「日本型コミュニケーションの課題」などポイントごとに、参加者同士で意見交換しながら考える演習をしていただきました。また、「分かり合えないことを超えて連携・協働できるかどうかは実はこれからの世の中を創る上で重要になってくる。」「たとえイメージが共有できても、手立てが見えなければ意味がない。」「人のタイプを把握して、議論に生かす。」などのことを教えていただき、充実した研修となりました。

県内の家庭教育
支援チームは
何チームある？



地域の実情に合わせ
「できることから」取り
組まれています。

県内に、11チーム(R6.3 現在)
あります！

活動内容

- 訪問型(ベルト型)家庭教育支援
- 親子参加型イベントを中心に保護者の気づきや学びを推進
- 保護者の仲間づくり
- 子どもたちの居場所づくり
- 困り感のある保護者の支援や研修会実施
- 子育てサロンの開催
- 情報提供
- 子育ての悩み相談 等

企業は家庭の応援団

とっとり家庭教育推進協力

令和6年3月15日現在

993社 と

協定を結んでいます。



【担当者より】

本年度も皆様には大変お世話になりました。

コロナ禍で人とのつながりが作れない状況が約3年間続き、ようやく以前の生活が戻りつつあります。しかしながら、途切れてしまったものを再構築することは容易ではなく、大変な労力が必要となります。世の中の状況は加速度を増して変化していき、課題も様々です。子どもや家庭を取り巻く課題もネグレクト、ヤングケアラー、SNS等でのトラブルなど重い課題が多数あります。これらの課題をすべて一度に解決することは難しいですが、保護者や子ども達にとって安心し支えとなる存在である皆さまに御協力をいただきながら、子育て世代が幸せに暮らせる世の中に近づけるよう、引き続きよろしくお願いいたします。